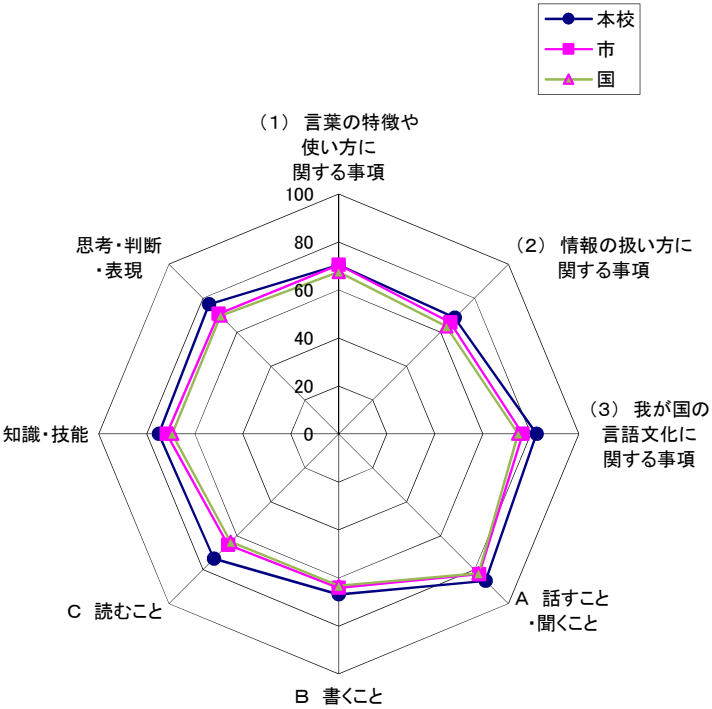


宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	70.4	70.5	67.5
	(2) 情報の扱いに関する事項	68.4	65.7	63.4
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	82.4	76.6	74.7
	A 話すこと・聞くこと	86.6	82.6	82.2
	B 書くこと	66.9	64.1	63.2
	C 読むこと	73.5	65.3	63.7
観点	知識・技能	75.0	71.7	69.4
	思考・判断・表現	76.4	70.8	69.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○国の平均を2.9ポイント上回った。漢字の意味を正しく理解している生徒が多かった。 ●正答率は市の平均を0.1ポイント下回った。言葉の意味を理解していない生徒が多かった。漢字の正答率は県の平均を上回ったが、50.7ポイントと課題が残った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・語彙力が弱い生徒が多いので、語彙力を身に付ける必要がある。言葉の意味を繰り返し説明し、定着を図る。 ・漢字力を更に身に付けるために、繰り返し書く時間を設けて、定着を図る必要がある。
(2) 情報の扱いに関する事項	○市の平均を2.7ポイント、国の平均を5.0ポイント上回った。漢字の意味を正しく理解している生徒が多かった。文章を適切に読み、必要な情報を見極める力が身に付いている生徒が多かった。 ●正答率が7割を切った。	・記事から必要な情報を取捨選択する力を身に付けるように、文章を丁寧に読み取る指導を繰り返し行い、定着を図る。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○市の平均を5.8ポイント、県の平均を7.7ポイント上回った。歴史的仮名遣いの読み方や意味を正しく理解している生徒が多かった。	・簡単な歴史的仮名遣いについては定着ができていますが、難易度が増すと読めなくなる生徒が多いので更なる定着を図る必要がある。また、古文の会話文を読み取る際に、誰の発言なのか、誰の行動なのかを対応できるように丁寧に指導していく必要がある。
A 話すこと・聞くこと	○市の平均を4.0ポイント、国の平均を4.4ポイント上回った。分類別にみても最も高いポイントとなった。	・試験での正答率だけでなく、学習したことを日頃の生活に行かせるように指導していく必要がある。
B 書くこと	○市の平均を2.8ポイント、国の平均を3.7ポイント上回った。 ●「レポートの下書きの一部について、文の一部を見直す意図として適切なものを選択する。」という問題では全国平均を0.2ポイント下回った。	・文を書くことにあまり抵抗のない生徒が多いが、要約することが苦手な生徒が多い。文章内の重要な部分を適切に読み取って、短く書く力を身に付けさせる必要がある。
C 読むこと	○市の平均を8.2ポイント、県の平均を9.8ポイント上回った。文章で述べられている内容を適切に読み取る力が強い生徒が多かった。	・語彙力を更に身に付けることで、文章読解をより正確に行えるようになると考えられるので、細かな表現を意識して読み取るよう丁寧に指導していく。